

関係機関・団体・課・室長 様

(兵庫県) 農政環境部長

秋雨前線及び台風来襲に伴う多雨・日照不足対策について (通知)

現在、日照不足・長雨が続き、大阪管区气象台9月29日発表の近畿地方1か月予報によると、日照時間の少ない状態が続く見込みとされています。

については、農作物の生育に影響があると見込まれますので、生産者に幅広い注意喚起をお願いします。

記

1 気象情報 (気象庁情報、平年値は1981~2010)

月	要素	平均気温(°C)			日照時間(h)			降水量(mm)		
	地域	本年	平年	区分	本年	平年	区分	本年	平年	区分
8	神戸	29.4	28.3	高い	279.4	228.3	多い	74.5	90.9	平年並
	豊岡	26.7	26.8	平年並	225.3	191.9	多い	209.0	127.0	多い
	姫路	28.3	27.5	高い	258.3	211.5	多い	75.0	95.9	平年並
	洲本	27.4	26.5	高い	304.2	231.1	かなり多い	45.5	106.9	少ない
9	神戸	26.0	25.2	高い	110.9	159.6	かなり少ない	187.5	144.6	多い
	豊岡	23.2	22.3	高い	88.3	118.2	かなり少ない	334.0	225.6	多い
	姫路	24.5	23.6	高い	103.3	156.9	かなり少ない	325.0	147.6	かなり多い
	洲本	23.8	23.3	平年並	110.9	163.1	かなり少ない	394.0	185.4	かなり多い

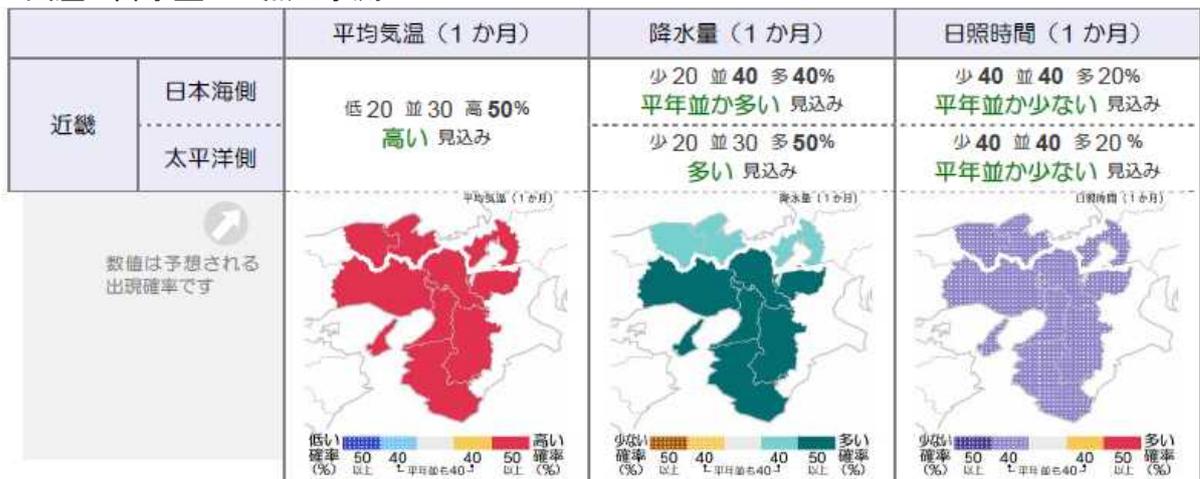
2 10月の気象予測 (大阪管区气象台、9月29日発表)

(1) 予測のポイント

向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高い見込み。特に期間のはじめは、かなり高くなる。

期間のはじめは、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、日照時間は少ない見込み。また、向こう1か月の降水量は、太平洋側を中心に多い見込み。

(2) 気温・降水量・日照の予測



(3) 週別天気

(1週目) 10/1~7	(2週目) 10/8~14	(3~4週目) 10/15~28
前線や湿った空気の影響をうけやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	高気圧と低気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるとでしょう。太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	高気圧と低気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるとでしょう。太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

2 農作物栽培上の留意点

作物	対応策 (栽培管理上等の留意)	
水稲	<p><収穫適期の把握></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 適期に機械収穫ができるよう、ほ場を速やかに乾かすため、降雨により水が溜まっているところや田面が軟弱なほ場では、排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策を徹底する。 ② 籾の黄熟割合（90%）を確認し、適期刈取りをする。 ③ 気温が高めで推移していることから、刈取り適期が早まっているため、収穫・乾燥・調製の準備を早める。 <p><乾燥調製上の留意></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 籾の乾燥は、張込み量に応じた温度設定を行い、急激な毎時乾燥減率にならないよう注意する（毎時乾減率の目安は、0.8%以下である（酒米は0.5%以下））。 ② 収穫籾は初めのうち5～6時間は通風乾燥を行い、急速に乾燥させないように注意する。 	
大豆	<ul style="list-style-type: none"> ① 排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策を徹底する。 ② 立枯性病害の対策として、排水を徹底し、発病しにくい環境を作るとともに、予防と被害株を除去する。 	
小豆	<ul style="list-style-type: none"> ① 排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策を徹底する。 ② 雑草の多いほ場では刈払い機による除草を行う。 	
麦	<ul style="list-style-type: none"> ① 水稲のコンバイン収穫時、ほ場の四隅に轍（わだち）ができないように注意する。 ② 耕うん前に弾丸暗きよや額縁明きよを設け、表面排水を行う。 ③ 本暗きよがない場合は、通常の弾丸暗きよの設置に加えて、排水口手前を40cm程度掘り下げ、3本程度の放射状の弾丸暗きよをサブソイラーで施工する。 	
野菜	<ul style="list-style-type: none"> ① 排水溝をさらえ、排水口とつなぎとともに、崩れた畝は、再度、管理機等で谷上げし排水対策を徹底する。 ② 風雨で茎葉が傷んだ場合、病害の発生に注意し早期に防除する。 	
	キャベツ	<ul style="list-style-type: none"> ① 1回目の追肥は、生育が進むと追肥作業が困難になるので、適期に条間に施用する。追肥時に三角ホーなどで雑草防除も行う。 ② 2回目の追肥は、結球開始初期に畝肩か畝間に施用する。 ③ 殺菌剤、液肥散布による病害抑制と生育改善を行う。
	レタス	<ul style="list-style-type: none"> ① 根圏環境の改善のため、中耕を行う。 ② 殺菌剤、液肥散布による病害抑制と生育改善を行う。 ③ 10月中旬以降にマルチ被覆を行い、ビッグベイン病対策を徹底する。

作物	対 応 策 (栽培管理上等の留意)	
	たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ① 苗床の谷溝さらえ等排水対策を徹底する。 ② 苗床栽培層に従い、防除を徹底する。 ③ べと病感染株の早期発見と抜き取りを徹底する。 特に、台風16号(9月20日)の大雨で、浸水した苗床は、べと病菌が侵入している可能性が高いので、本田に持ち込まないように定植前日のべと病防除剤散布を必ず実施する。
野菜	はくさい	<ul style="list-style-type: none"> ① 殺菌剤、液肥散布により病害抑制と生育改善を行う。 ② 1～2月取り品種では、可能な限り早期に畝立てし、定植する。
	岩津ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ① 排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策を徹底するとともに、天候が回復次第、土寄作業を開始する。
	施設野菜	<ul style="list-style-type: none"> ① 換気・通風により、湿度条件の改善に努める。 ② 薬剤散布により病害虫抑制を行う。
果樹	いちじく	<ul style="list-style-type: none"> ① イチジクの落果や腐敗果は、ショウジョウバエ類の発生につながるので、できるだけ早く園外に持ち出し処分する。 ② 選別を丁寧に行うとともに、園内の清掃に努める。
	温州みかん	<ul style="list-style-type: none"> ① 浮皮の発生が懸念されるため、排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策を徹底するとともに、適期収穫を行う。
花き	<ul style="list-style-type: none"> ① 露地栽培では、排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策の徹底により、生育回復を促す。 ② 施設栽培では、換気・通風により、湿度条件の改善に努める。 ③ 花壇用苗物類ではかん水を控えめにし、根張り・草勢の回復に努める。 ④ 病害に対して、定期的な予防剤の散布を行い、発生初期を見逃さないよう、ほ場を良く観察する。 ⑤ 病害の発生を認めた場合は、罹病した葉や株、ポットなど早期に処分するとともに、治療効果のある薬剤の選択とローテーション散布に心がける。 	